

報告(NPO 事業)

令和4年度 活動報告・令和5年度 活動計画

【令和4年度】

①**新規事業**として「就労継続支援B型事業所 ひかりの森」を4月より開始した。

②**デイケア事業**は令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、通所支援の他、電話等による在宅支援を継続した。一日の活動参加平均は7人、電話等による支援3.5人で、一日10.5人となった。

11月には秋の演奏会(出演パラレルナイン他)も行った。英会話、川柳は継続した。広報については、9月「ひかりの森レター no.10」を発行、NHK「視覚障害ナビラジオ」取材、国リハの学生見学ほか受け入れ、協働フェスタ参加など、広く対外活動を行った。令和4年度末の利用登録者は64名、(市内39名、市外25名)である。

③**相談支援事業所**の契約者は172名(前年142名)、計画作成164件(前年122件)、モニタリング417件(前年442件)となり、職員の増強も含めて更に体制を強化した。

④**新規事業**である「**就労継続支援B型事業所**」は6月から本格的に活動を開始した。令和4年度末の利用者契約数は13名である。利用者活動人数は一日4.8人である。地域活動支援センターから移管された点字名刺作業は継続して積極的に取り組んだ。受注件数は602件(前年401件)であった。軽作業の協力会社は現在10社である。独自の取り組みとしては、「もみほぐし」(週3日)を実施、また「コーヒー豆販売」を開始した。

⑤**就労継続支援B型事業**のさらなる充実を目的に「**就B対策プロジェクト**」を発足し4回の会議を開催した。その結果、新たな企画として、「視覚障がい者サポートボランティア教室」を開催(令和5年3月)、5名のボランティアが登録し、サポート活動に参加した。

なお、「同行援護事業所」の開始は諸般の環境を鑑み行わないこととした。

⑥**NPO法人**の正会員は29名、賛助会員75名、法人会員6社の実勢である。

【令和5年度】

基本方針 令和5年度は、就労継続支援B型事業(以下「就B」という)が2年目に入ることもありNPO活動全体にとって重要な期となることを踏まえ、以下の3点を基本に活動する。

- ① 地活、相談支援事業所、就Bは連携を行う。
- ② 各事業は一層独立採算性の確保に注力し確実な成果をあげる。
- ③ 今後のNPO法人の事業継続性を確実なものとするため、将来の事業を担える人材の育成に具体的に取り組む。
- ④ NPOの財務状況に留意し活動の優先事項と期日を常に念頭に置いて活動する。

1. 特定非営利活動に係る事業

(1)**デイケア等地活事業**・基礎的事業、機能強化事業は従来通り行政と連携を取りながら適切に対応する。

・一日の利用者はコロナ感染症以前の状況に回復するよう取り組む。

(2)**相談支援事業所**・相談員の利用者対応力を強化し組織全体でのスキルアップをはかる。

・相談支援専門員の増強に取り組む。

(3)**就労継続支援B型事業所** 独立採算による事業継続の最重要年と認識し、緻密に計画し進捗管理を行う。

・利用者契約数と月間利用者活動人数の年間を通じた増加拡大活動に注力する。・協力会社の倍増を実現し仕事の安定的運営ができるようNPOが全組織的に行動する。・点字名刺は組織的活動により発注者のニーズに的確に対応し受注の倍増を計る。・もみほぐし、コーヒー豆販売に続く新たな仕事の企画を構築する。・職員をサポートするボランティアの獲得と活用を図る。

2. **その他の事業**・「あるつく」の活用策を企画し、収益確保を目指す。

3. NPOの運営関連

・職員の能力開発の為、各種研修への派遣、計画的受講を行う。

・NPO全体としてジョブローテーションを行い人材の早期育成と有機的活用を図る。

・権限委譲、OJTを通じ次世代の経営人材の育成と組織運営の効率化を実行する。

・常に固定費の削減を意識し財務体質の改善を進める。

以上



第15回 通常総会 2023年6月17日(土)

賛助会員を募集中!! (年会費/1口2,000円~)

「人のために、皆のために、社会のために」と思っている方。

同じ思いを持った仲間を作りたい方。

あなたの豊かな経験や貴重な体験をひかりの森で活かしましょう。

越谷の宝『ひかりの森』を応援しましょう!

